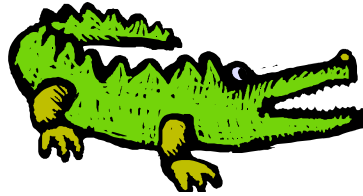


事 実



とインパクト

(10月のごあいさつ)

平成26年10月1日(水)

晴れた日曜日の夜、素晴らしい花火を見ることができました。10月の声を聞くと、さすがに青空から熱気が抜け、朝の散歩の時の風が気持ちよく感じます。

先々月はオリックスの宮内義彦氏の、「**沖縄の将来、沖縄の夢を語る**」という講演の中で**ハワイと沖縄**の比較の話を紹介した。

ハワイは、原子力空母や潜水艦などをかかえる**世界最大の海軍基地**と**観光産業**を持ち、太平洋の真ん中に位置している。沖縄は、**東洋最大の米軍基地**と**豊富な観光資源**を持ち、ユーラシアの東に位置している。この非常によく似た地理的、経済的位置や環境の中で、**ハワイのイメージは観光**であって、**軍事基地のイメージはほとんどない**。

ハワイは**基地を後ろ**において、**観光を前**に売り出している。それに比べて、沖縄は**軍事基地が前**で、**観光のイメージは後ろ**になっている。ハワイと沖縄を比較すると売りが逆になっている感じがする。将来の沖縄の地理的、文化的な面から見た観光の可能性には大きいものがあるのに。

宮内氏のご講演を聴きながら、**ワニの口**を思い出した。**ハワイの観光**はワニの口に向い大きく開いている、**軍事基地**は尻尾に向いているようだ。それに対し沖縄は、**基地が大きなワニの口を開け、観光が尻尾**になっている。このイメージの転換は沖縄観光の大きな課題であり、是非とも改善しなければならない。

これはそのまま基地問題の伝え方にもなっているように思う。本土の友人が沖縄へ来て、基地問題やオスプレーはどこにあるの？広い空と青い海ばかりなのに？と尋ねる。沖縄の人や場所は基地という大きな場所や環境の中に住んでいるという感じを持っていて沖縄へ来てそれほどでもないのに驚いている。それは余りにも大きなインパクトに対する反動のようなものだ。このイメージのアンバランスは時が解決するかもしれないが、意識の改革により解決を早める必要がある。また、観光と基地は本来は別のことでもあるし、重点の置き方を改める必要がある。

これとよく似た話に電力コストの問題があるように思う。3.11における東京電力の原子炉の問題は世間に大きなインパクトを与え、現在、発電コストに占める原子力と化石エネルギーの比率は1:10にまで縮少している。このため、鉱物性燃料の輸入コストは10兆円も増加し、貿易収支の悪化につながっている。また、他方において、化石燃料による大気汚染は、温室ガスの削減目標の起点となった1990年の京都議定書の基準を上回ってしまった。

勿論、沖縄の軍事基地は過剰であるし、縮小へ向うべきは誰が考えても当然であり、新しい基地を建設するなんていうのは非常識も甚だしい。東電の原子炉の二次災害の規模と影響は、100年に一度の大震災よりも、何倍も大きく悪質な災害である。

しかし、バランスを欠いた受けとめ方は、真実から遠くなるほどの結果をもたらし、事実を誤った方向へ導く恐れがあるのではないだろうか。日本人の悪いことに対する意識の持ち方がおかしいのだろうか。